

2023年11月期
第3四半期
決算補足説明資料



ティアンドエス株式会社
(東証グロース 4055)
2023.10.13

T&S
Technology & Service

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
業績推移	p. 7
カテゴリー別売上高	p. 8
取引先別売上高	p. 9
四半期別売上高・営業利益	p. 10
主要取引先動向	p. 11
エンジニアの状況	p. 12
損益計算書	p. 13
貸借対照表	p. 14
トピックス	p. 15
業績予想進捗率	p. 17
株主還元	p. 19

(今期のテーマ)

成長の継続

1 過去最高収益を継続(過去同四半期比)

売上高	: 25億 20百万円	(7.8%増↑	増加額: 182百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 4億 61百万円	(9.0%増↑	増加額: 37百万円)	(同)
経常利益	: 4億 65百万円	(7.9%増↑	増加額: 34百万円)	(同)
四半期純利益	: 3億 26百万円	(7.7%増↑	増加額: 23百万円)	(同)

2 半導体カテゴリーが好調を維持

- ▶ 半導体カテゴリーの売上高は前年同四半期比**17.3%増**。半導体市況低迷の影響を最小限に抑え、好調を維持。
- ▶ ソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**8.4%増**。主要取引先以外のその他取引先からの受注拡大が寄与し堅調に推移。主要取引先からの受託開発案件の受注は安定して推移。
- ▶ 先進技術ソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**21.0%減**。前期に売上計上された大型案件の反動により売上高が減少しているが、前年同四半期比の減少幅は2Qに比較して改善。

3 業績連動賞与を引当計上するも、営業利益率は上昇

- ▶ 営業利益の一部を従業員に還元する施策を当期も継続。業績連動賞与13百万円を引当計上。
- ▶ 外注費や労務費の増加はあったものの営業利益率**18.3%**を達成。(前年同四半期比0.2ポイント増)

決算概要

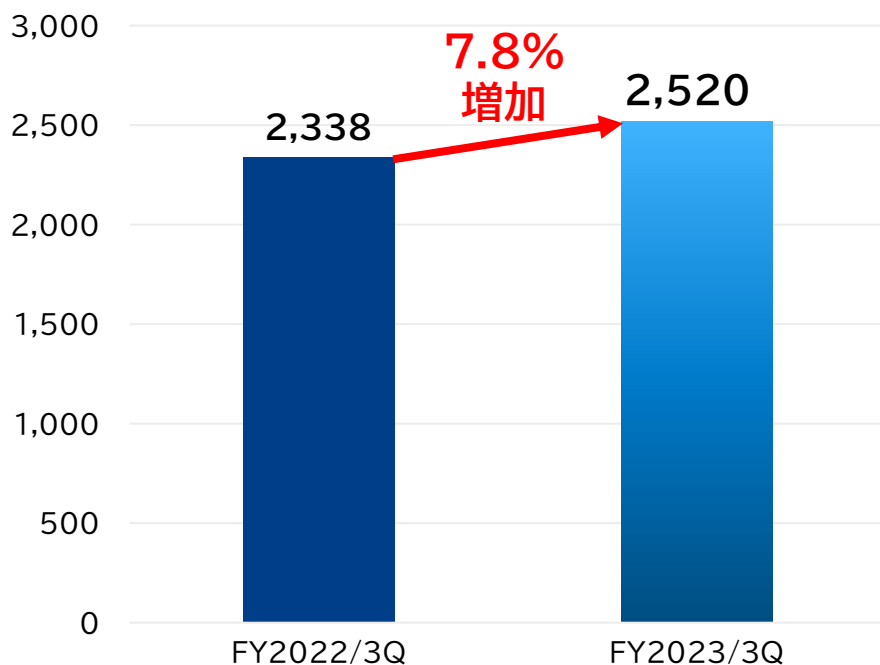
2023年11月期 第3四半期

過去最高収益を継続 (過去同四半期比)

売上高	: 25億 20百万円	(7.8%増↑	増加額: 182百万円	(前年同四半期比)
営業利益	: 4億 61百万円	(9.0%増↑	増加額: 37百万円	(同)
経常利益	: 4億 65百万円	(7.9%増↑	増加額: 34百万円	(同)
四半期純利益	: 3億 26百万円	(7.7%増↑	増加額: 23百万円	(同)

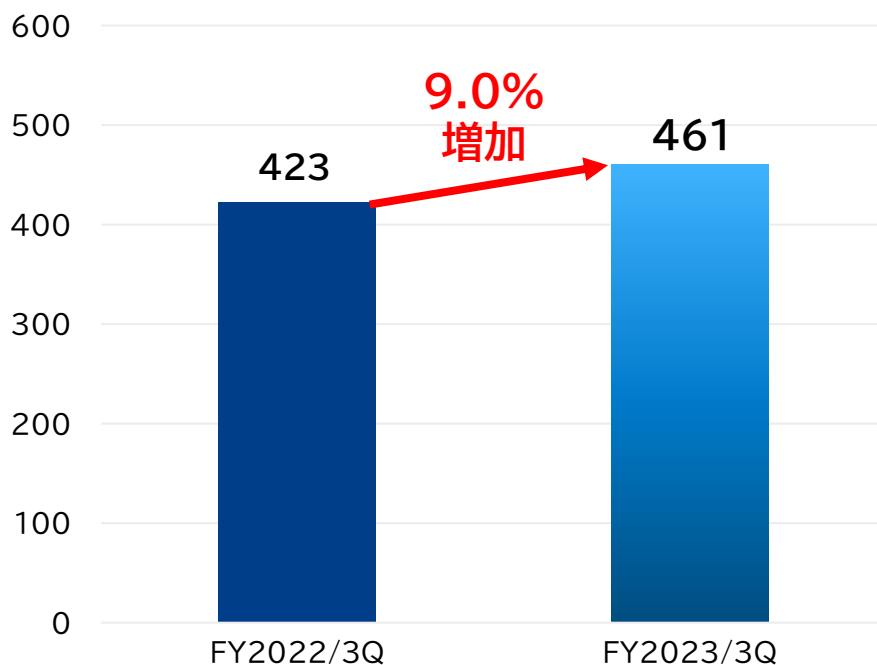
(単位:百万円)

売上高



(単位:百万円)

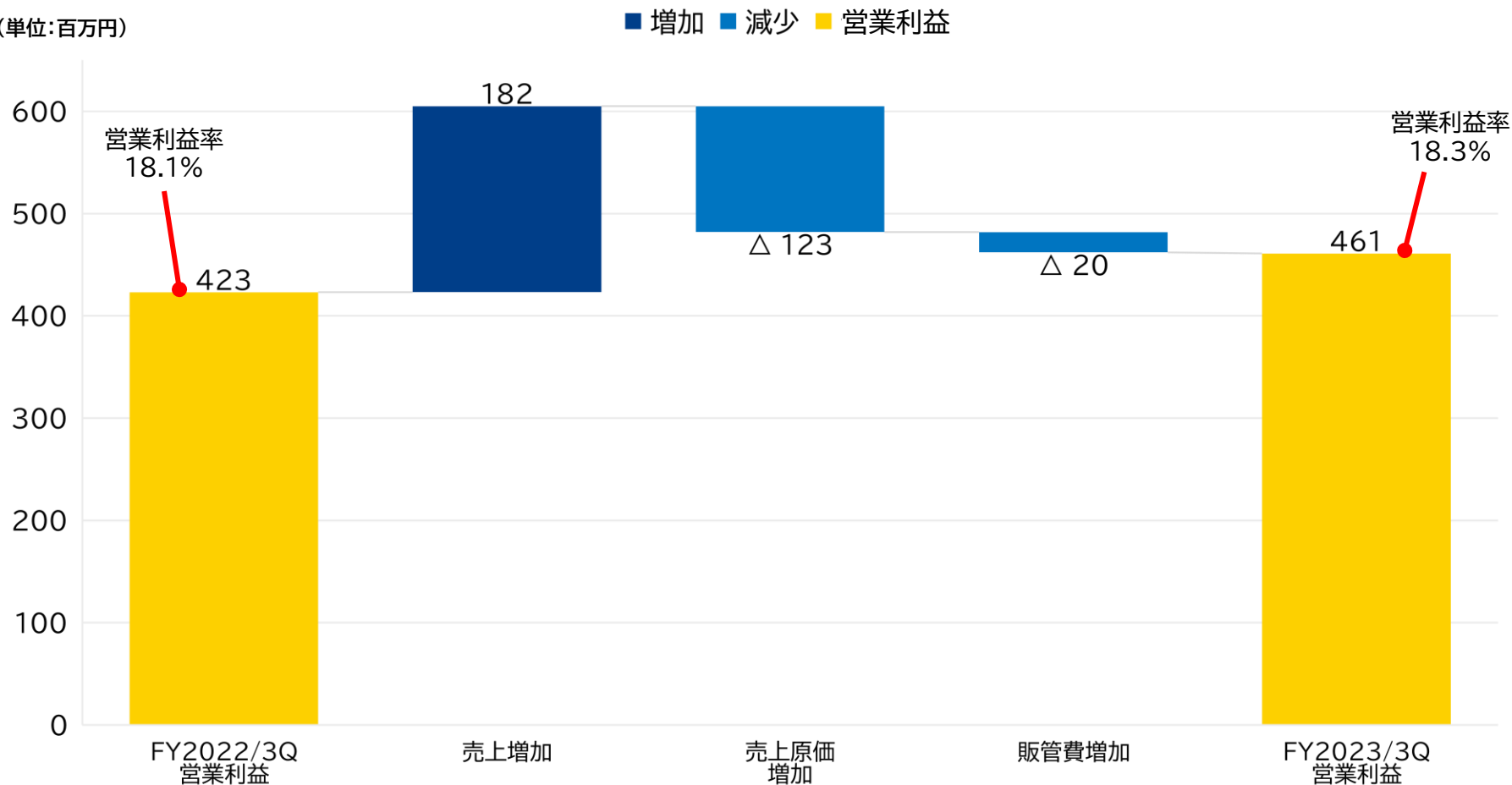
営業利益



営業利益の状況(FY2023/3Q)

37百万円の**営業利益増** (前年同四半期比)

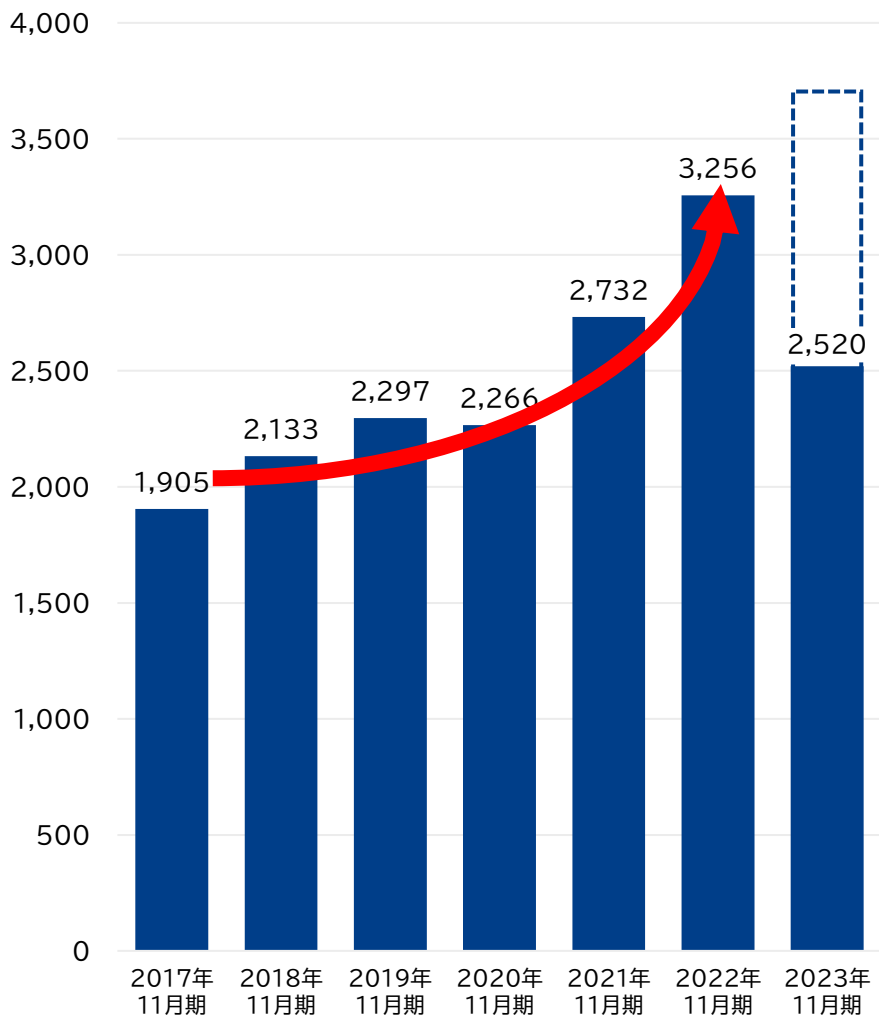
(単位:百万円)



業績推移

売上高

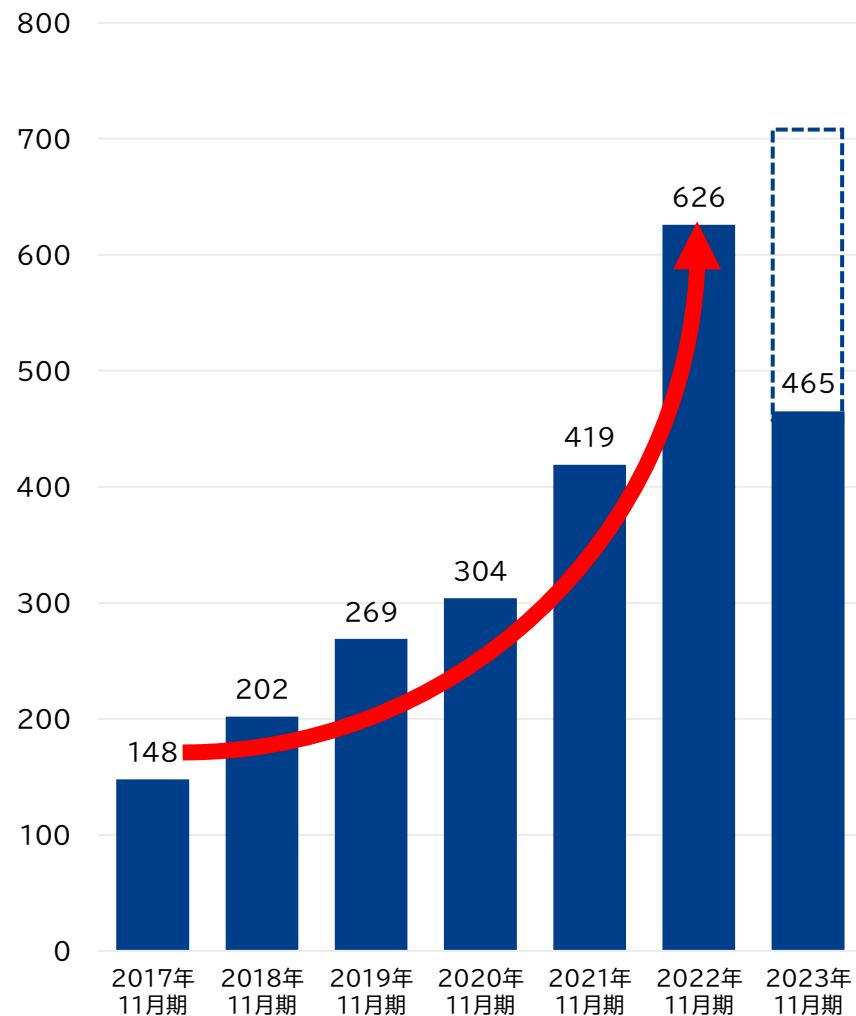
(百万円)



(第3四半期実績)

経常利益

(百万円)



(第3四半期実績)

カテゴリー別売上高 (FY2023/3Q)

ソリューションは**8.4%増加**で堅調に推移
(前年同四半期比)

半導体は**17.3%増加**で好調を継続
(前年同四半期比)

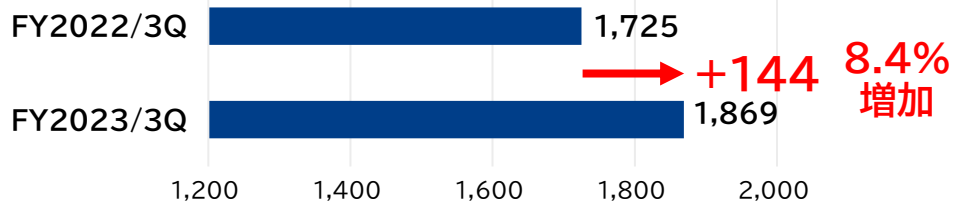
先進技術ソリューションは前期の大型案件の反動で**21.0%減少**
(前年同四半期比)

(前年同四半期比)

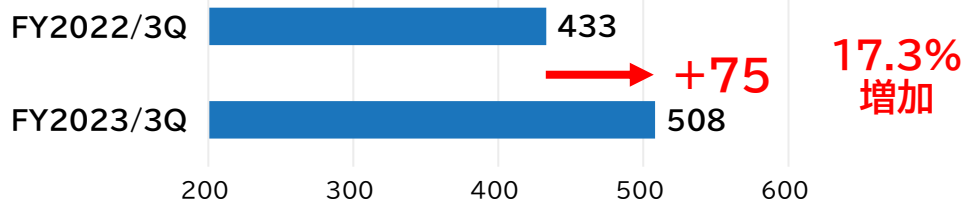
売上高(カテゴリー別)

(単位:百万円)

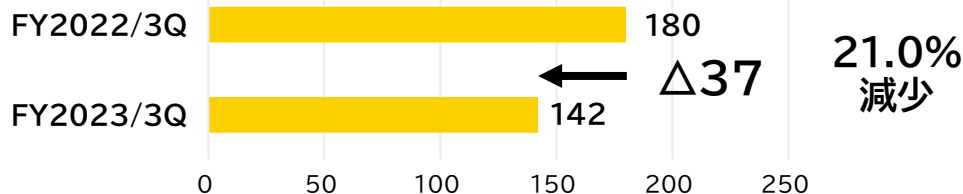
ソリューション



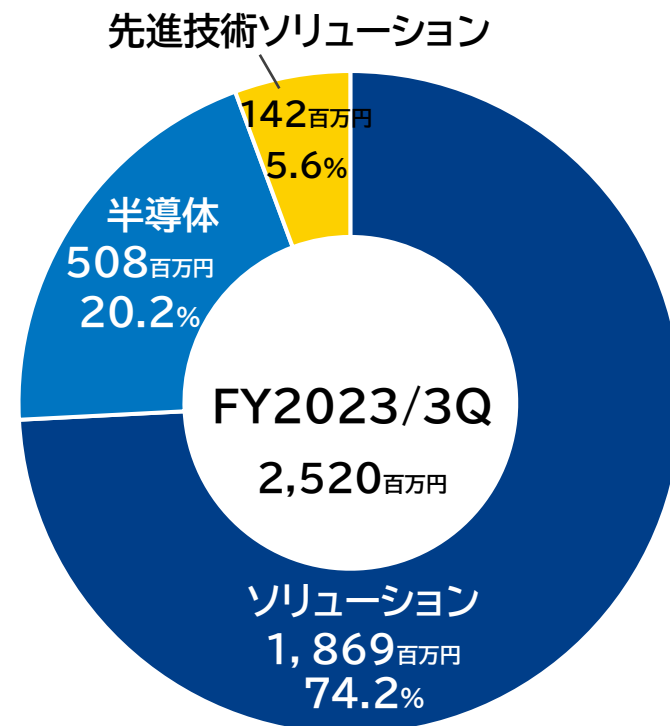
半導体



先進技術ソリューション



売上比率(カテゴリー別)



(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

取引先別売上高(FY2023/3Q)

東芝G、日立G、キオクシアG

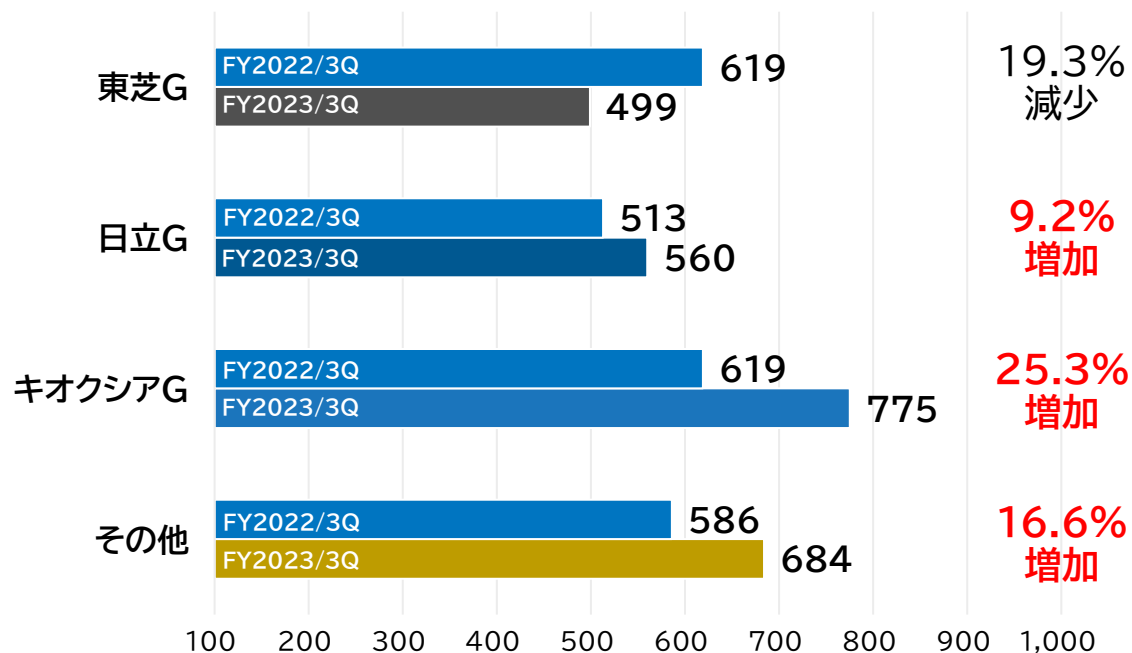
主要取引先は安定して推移

キオクシアG と その他 取引先が伸長

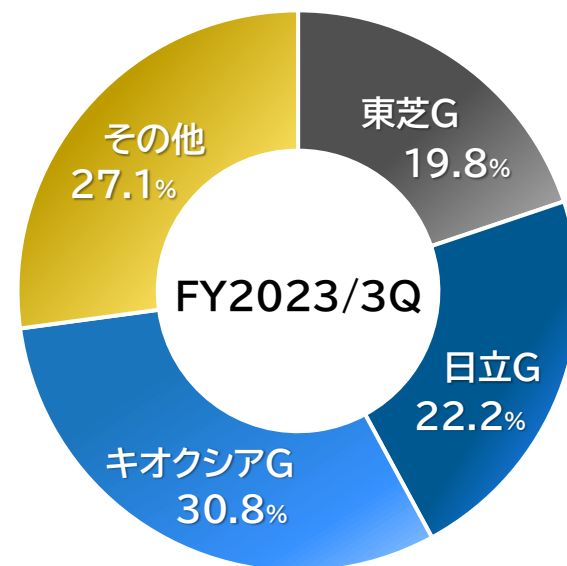
(25.3%増加)
(前年同四半期比)

(16.6%増加)
(前年同四半期比)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



(※)東芝Gの再編に伴い、従来東芝Gとして集計していた旧中部東芝エンジニアリング(株)(現キオクシアエンジニアリング(株))に対する売上高のうち前期3Q以降分をキオクシアGとして集計しています。これを考慮すると、東芝Gに対する売上高は実質0.7%の増加になります。

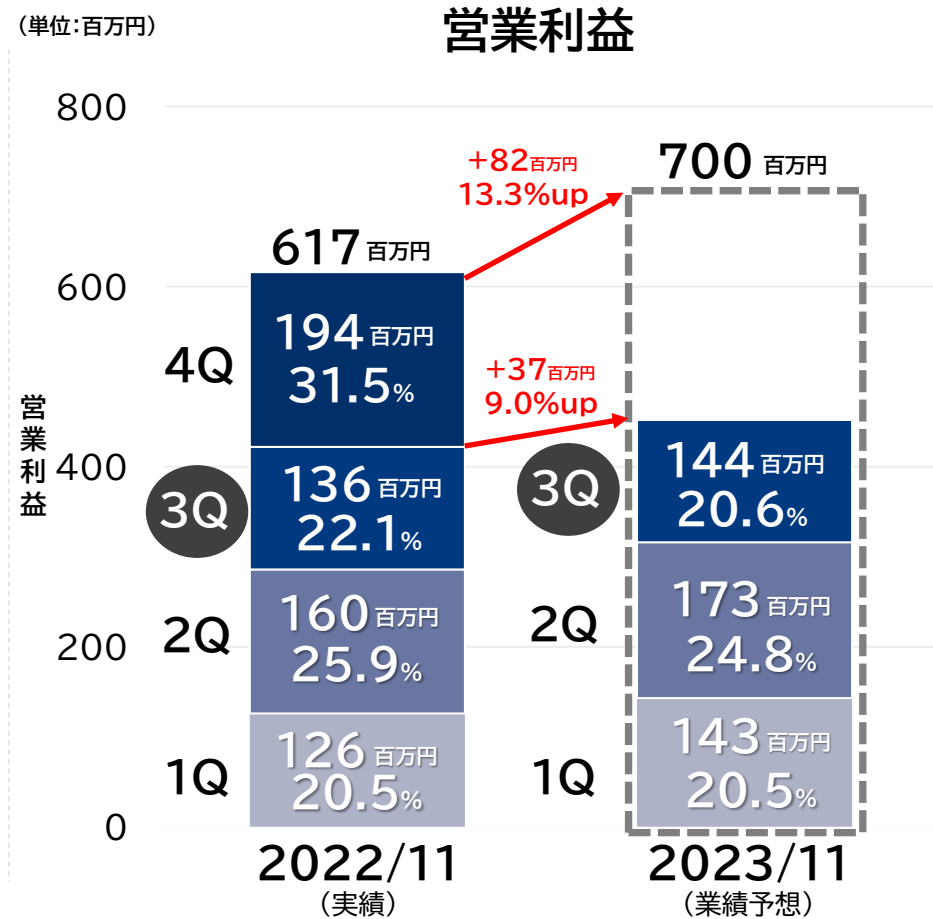
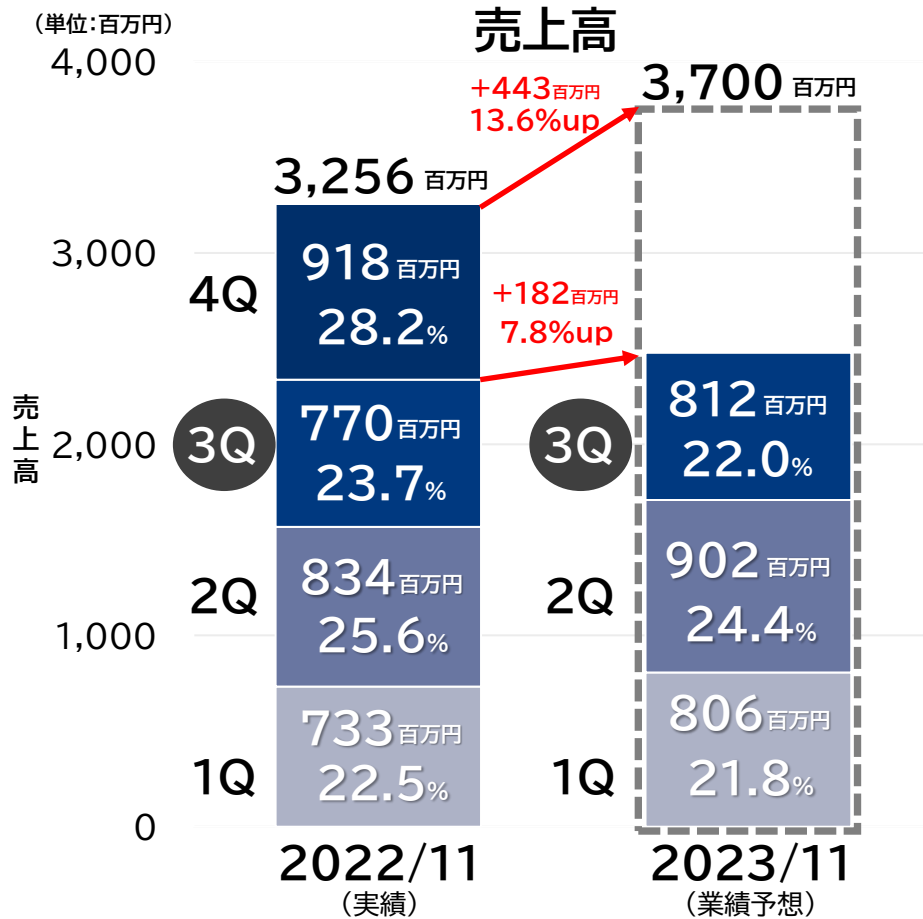
四半期別売上高・営業利益(FY2023/3Q)

3Q累計売上高：25億20百万円

増加額：**+182百万円 7.8%増加** (前年同四半期比)

3Q累計営業利益：4億61百万円

増加額：**+37百万円 9.0%増加** (前年同四半期比)



※当社の業績には、エンジニアの増員状況や案件の納期の関係で若干の季節変動が見られます。

(全体)主要取引先動向

(2023年10月13日現在)

半導体市況は2022年後半以降の低迷からの回復が遅れていますが、中長期的には成長トレンドとみる見方に大きな変化はありません。一方、世界的なインフレ、ロシアのウクライナ侵攻の長期化など地政学的リスクへの対応は依然として課題となっています。

東芝G

非上場化へ向けた動きも年内には決着する見通し。2023年度第1四半期の売上高は、前年同期比で減少したものの、当社がシステム開発を手掛ける発電所関連のエネルギーシステムソリューションセグメントは好調に推移しており、当社にとって好材料とみています。

日立G

ITサービスを担う「デジタルシステム&サービス」セグメントにおいて、大型事業を中心に受注が堅調に推移。デジタル需要を背景とした事業拡大は継続する見通しであり、当社への引き合いも引き続き増加が期待されます。

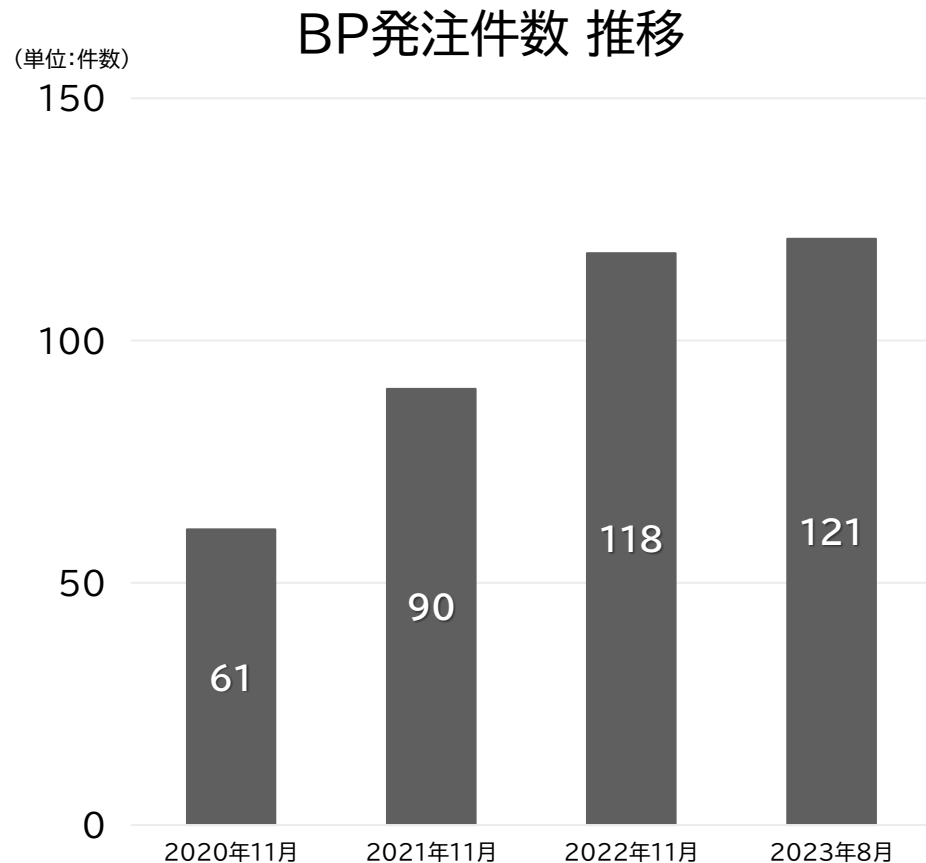
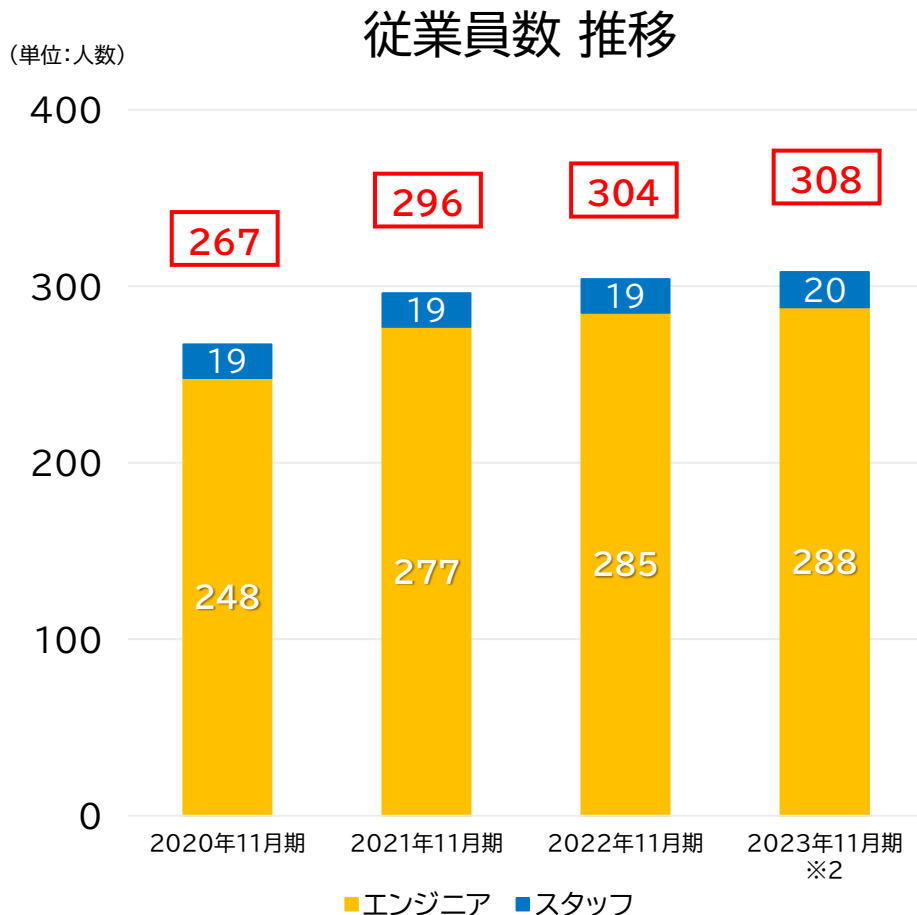
キオクシアG

世界的な半導体需要の減退、その後の市況回復の遅れを踏まえ、需要動向にあわせた生産調整を継続する見通し。短期的には厳しい状況だが、中長期的には成長トレンドの市場との見方に変化はなく、次世代製品開発や製造コスト低減等の競争力維持のための取り組みを継続する見込み。

その他

ChatGPTに代表される生成AIが注目。業務での利用可能性の検討など、当社の取引先からの引き合いも拡大しています。

BP^(※1)戦力を維持しエンジニアリソースを確保



※1 BP…ビジネスパートナー。業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

※2 10/13時点

損益計算書(FY2023/3Q)

単位:千円	FY2022/3Q	FY2023/3Q	増減額	増減率
売上高	2,338,440	2,520,546	182,105	7.8%
売上原価	1,620,367	1,743,691※	123,324	7.6%
売上総利益	718,072	776,854	58,781	8.2%
販売費及び一般管理費	294,799	315,654※	20,854	7.1%
営業利益	423,273	461,200	37,927	9.0%
(営業利益率)	(18.1%)	(18.3%)		
経常利益	431,739	465,913	34,173	7.9%
(経常利益率)	(18.5%)	(18.5%)		
四半期純利益	302,735	326,037	23,301	7.7%
(四半期純利益率)	(12.9%)	(12.9%)		

※従業員への業績連動賞与13,000千円を含んでおります。

貸借対照表(FY2023/3Q)

貸借対照表(FY2023/3Q)

単位:千円	FY2022	FY2023/3Q	増減
流動資産	2,110,767	2,232,095	121,327
固定資産	170,732	145,907	△24,824
資産合計	2,281,500	2,378,002	96,502
流動負債	498,233	306,927	△191,306
固定負債	49,763	55,618	5,855
負債合計	547,996	362,545	△185,451
株主資本合計	1,733,503	2,015,457	281,953
純資産合計	1,733,503	2,015,457	281,953
負債純資産合計	2,281,500	2,378,002	96,502

トピックス

トピック： 持株会社体制への移行検討を開始

当社は、2024年中を目処に**持株会社体制へ移行**することについて検討を開始することを決議いたしました。

目的

- ✓ 機動的できめの細かい経営の実現
- ✓ 事業会社の独立性の確保
- ✓ 効率的な資源配分
- ✓ 効果的なコーポレート・ガバナンスの実現
- ✓ 新規事業創出
- ✓ M&Aによる事業拡大の実現

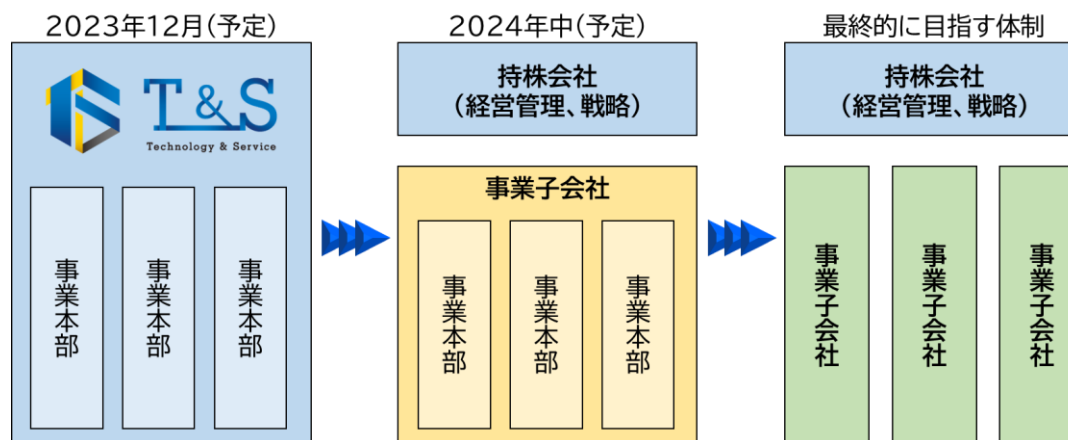
時期

- ✓ 2024 年中を目途に推進

方法

- ✓ 決まり次第随時公表

移行における持株会社体制のイメージ図



(2023年9月15日公表) 16

業績予想進捗率

2023年11月期3Q現在

通期業績予想の変更なし

単位:百万円	2022年11月期 (実績)	2023年11月期 (予想)	2023年11月期 第3四半期(実績)	進捗率
売上高	3,256	3,700	2,520	68.1%
営業利益	617	700	461	65.9%
経常利益	626	703	465	66.2%
当期(四半期)純利益	440	495	326	65.8%

全社

売上高は前年同四半期比7.8%増。主要取引先からの受注は安定して推移し、加えてその他取引先からの受注も伸長した。3Q累計売上高は過去最高を維持したが、エンジニア増員の遅れが影響し、通期予想に対する進捗率は68.1%となった。技術者リソースを補うため、前期末より継続してBP利用を増加させている。業績連動賞与の引当13百万円を計上するも、営業利益は461百万円と前年同期比9.0%増。営業利益率は18.3%。

ソリューション

前年同期比8.4%増。その他の取引先からの請負開発案件の受注が伸長。主要取引先からの受託請負開発の受注は引き続き好調を維持。

半導体

前年同期比17.3%増。半導体市況の低迷によるコスト協力等の影響はあったが増収を確保。工場システムの運用保守は操業度との関連は薄い。半導体市況の回復遅れの影響は生じる見込み。

先進技術
ソリューション

前年同期比21.0%減。前期首にあった仕掛中の大型案件が前年同期に売上計上された反動で、上半期に続き当四半期の売上高は減少しているが、外観検査システム開発が順調に推移したこともあり、2Qに比較し減少幅は縮小。

株主還元

2023年11月期の配当性向も10%を目標とします

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2023年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり6円55銭(55銭増配)を予想しております。

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向	自己資本利益率 (ROE)
2022年11月期 (実績)	6円00銭	10.3%	27.3%
2023年11月期 (予想)	6円55銭	10.0%	25.3%

お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営企画IR部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。